

普及活動情勢報告（令和3年3月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

直販所へのH A C C P 周知巡回



2月24日、農業改良普及課では管内の農産物直販所の代表者にH A C C Pの制度概要や変更点について説明巡回をしました。この取り組みは、食品衛生法の改正により全ての食品加工業者が令和3年6月1日までにH A C C Pの手引書作成が義務化されたことを受けて実施しました。

説明資料は安芸福祉保健所の協力を得て作成しました。営業許可を取得している加工者以外でも、カット野菜やこんにゃく等の出荷者はH A C C Pの対象者になることから、直販所からその方への説明についてもお願いしました。

今後、農業改良普及課では直販所の代表者と連携を取り、安芸福祉保健所の協力を得てH A C C P手引書作成を支援します。

来年度の普及活動の推進に向けて ～令和2年度 安芸地区普及推進協議会～



2月25日、安芸地区普及推進協議会を田野町ふれあいセンターで開催し、40人（うち生産者9人）が出席しました。

農業改良普及課は、令和2年度の普及実績概要及び令和3年度の普及計画素案を説明後、生産者と意見交換を行いました。

生産者からは、「環境制御機器を十分活用できていない方もいるので、産地全体の生産向上につながるよう指導して欲しい。」「研修制度の充実や、新規就農者に対してデータを使った指導をしてほしい。」など、IoTデータの栽培活用や担い手対策に関する意見が出されました。

農業改良普及課では、本会議で出された意見を今後の普及活動の実践に活かしていきます。

目標収量の達成に向け栽培管理シートを共有 ～新規就農者育成～



3月9日、10日及び16日に新規就農者5人を対象に、栽培管理シートを共有し、これまでの着果量やかん水量の推移、月別の目標収量の達成状況等を確認しながら、これまでの管理の振り返りと今後の管理について話し合いました。

対象農家からは、「栽培管理シートを見て毎月の目標収量の達成状況を確認することで栽培管理にやりがいがある」「着果量やかん水量を記録することで、今後の栽培管理の改善につながる」等の声がありました。

農業改良普及課は今後も定期的にフィードバックを行い、新規就農者等の目標収量の達成を支援します。

今年はいっぱい採るぞ！ ～ぼたなす栽培準備会～



3月11日、農業改良普及課室戸支所は室戸市吉良川町日南地区でぼたなすの栽培準備会を開催し、生産者や関係機関8人が参加しました。

「今年は樹勢を強く維持して、株当たり40個採るぞ！」の目標達成に向けて、育苗から収穫初期までの管理と有害鳥獣対策について指導しました。

生産者は「去年は目標に届かなかったけど今年は頑張るぞね！」と増収に向けて意気込みを見せました。

農業改良普及課室戸支所は、今後も関係機関と連携してぼたなすの増収、消費拡大に向けた支援を行っていきます。

自然薯勉強会



3月16日、安田町中山地区で、自然薯の勉強会を開催し、生産者や関係者を含む20人で活発な意見交換がなされました。

実証ほで実証した施肥方法は、省力的で経済的なことから反響がありました。また他県で購入している種苗について、自家生産する体制の可能性について様々な意見が出ました。

今年はコロナ禍でイベント「やまいもまつり」が開催されなかったなど逆風がありましたが、その分販売促進に力を入れた結果、ここ16年で最高のJA出荷量を記録するなど、これまでの振興策の効果が出てきました。今後も継続した自然薯振興による地域活性化を目指します。

センリョウの土壌管理改善に向けて ～自生地に学べ！～



3月23日、吉良川千両部会でセンリョウの自生地調査を行いました。

部会では、安定生産を続けるために土壌管理に重点を置いた栽培に取り組んでいます。農業改良普及課はJAと協力してほ場の土壌分析を進めるとともに、管内に自生地があることに着目し、調査を行いました。当日は部会代表2名が参加し、東洋町の自生地で照度や湿度を調査し、土壌を持ち帰り分析を行いました。

生産者からは、「長いことセンリョウを作りゆけんど、生えちゅう所ははじめて見た」「うちのほ場とどればあ違うか、早う結果を見てみたい」など興味津々でした。

農業改良普及課では今回の調査結果を参考に土壌管理指導を行い、千両部会の活動支援に努めます。